

平成26年度文部科学省指定 スーパーグローバルハイスクール（5年間指定）

2015 SGH通信

【1年生配布用】

No23 岐阜県立大垣北高等学校 SGH推進部

今回は【国際医療】分野として感染症をテーマに勉強します。

◆ 発展途上国で感染症が発生・流行する理由について考えてみましょう。



感染症とは？

感染症とは、微生物が体内に侵入して感染することによっておこる病気の総称と定義されています。

感染症を引き起こす病原体には、ウイルスや細菌などさまざまな種類があり、食物や飲料水、または蚊やダニなどの媒介動物を通して感染します。



<感染症にかかりやすい環境>

- ① 病原体が人の体に侵入する数や機会が多い
- ② 病原体の自然宿主や媒介する生物（媒介動物）が多い
- ③ 病原体が侵入しやすい居住空間や生活様式である。
- ④ 公衆衛生の状態が良くない。



地球温暖化による感染症のリスク増大

下痢症やコレラのように汚染された水が原因となる水媒介性感染症は、特に上下水の設備が不十分な途上国を中心として、深刻な問題となっています。温暖化が進むと水温が上がって汚染の原因となる菌が増加し、悪影響が大きくなることが懸念されます。エルニーニョ現象が発生した1998年には、世界各地でさまざまな感染症の被害が増加しました。

また温暖化が進むと、感染症を媒介する昆虫をはじめとする様々な害虫の分布が、北方に拡大する可能性もあります。

今後、先進国の多い北半球でも流行する可能性はあります。

高校生の私たちでも解決できる問題はないだろうか？

発展途上国で感染症が発生・流行する理由

経済的に貧しい

- ・ 慢性的な栄養不足
- ・ 不衛生な環境
- ・ 薬が買えない
- ・ 医療が受けられない

医療整備の遅れ

- ・ 予防接種が受けられない
- ・ 適切な治療が受けられない
- ・ 医療施設や医療従事者が少ない

知識不足

- ・ 衛生や予防についての知識・情報が少ない
- ・ 病気や予防方法などを知る機会に乏しい

感染症の予防

ワクチン



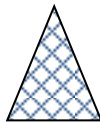
- ・感染症によってはワクチンを接種することで予防できるものがあります。
- ・子供がかかりやすい破傷風、ポリオ、はしかなどに有効な対策です。
- ・国際機関や先進国の機関がワクチンを送るなどの活動をしています。

水環境の整備



- ・生活排水や家畜のふんなどで汚れた不衛生な水には、コレラ、腸チフス、赤痢などの病原体が含まれていることがあります。
- ・安全な地域を選んで井戸を掘り、清潔で安全な水を飲み水や生活用水として利用できるようにすれば、感染症の予防になります。
- ・清潔なトイレと手洗い場を整えて、病原体の拡散を防ぐこともできます。

蚊帳



- ・日本では蚊を寄せ付けないようにするために蚊帳を部屋に吊って就寝する風習があります。
- ・熱帯、亜熱帯の地方では、蚊が媒介するマラリアに感ずる人がいます。
- ・この蚊帳をマラリアの感染地域に送って、マラリアの予防に役立っています。

衛生教育



- ・感染症の多くは、予防の措置をすれば防ぐことができます。そのために感染ルート、初期症状、適切な治療薬などの衛生教育を受けることで、人々はもっとも効果的な予防の措置を講じることができるようになります。
- ・予防方法を知ることは、感染症が発生した場合でも感染症の拡散防止につながります。
- ・例えば、トイレ後や食事前に手洗いを行うことも感染症の予防にはとても効果的で、手洗い指導を実施することも重要な衛生教育です。

感染症の減少、撲滅に向けて様々な取り組みがおこなわれており、うがい、手洗いなどの基本的な行為でも予防につながる事が分かりますね。高校生でも解決に向けて取り組める課題があるのではないのでしょうか？まずは、対象とする途上国の現状や事例を集めて、分析してみましょう。

「私達ひとりひとりには微力だけど無力ではない。私はそう信じている。」

カンボジアのスタディツアーに行ったある高校生のメッセージです。今後、チームを組んで、東南アジア諸国が抱える問題について、取り組む課題の設定をします。難しい点もあると思いますが、たくさんの大学の先生や学生さんの協力を得ることが出来ます。臆せずに取り組んでほしいと思います。

JICA 国際協力中
学生・高校生エッセ
イコンテストより

参考文献：「国際理解教育実践資料集」独立行政法人 国際協力機構（JICA）地球ひろば 2013年3月
「地球温暖化と感染症—いま、何が分かっているのか？—」環境省パンフレット概要紹介より ←5 領域入門
講座：環境エネルギー（農学）ご担当：伊藤先生お勧めの参考資料です。

https://www.env.go.jp/earth/ondanka/pamph_infection/full.pdf